



2018-'19 Weekly Report

2018/9/19 **9**

BE THE INSPIRATION RI 会長 バリー・ラシン

クラブ会長テーマ 進化の足跡を残そう

第 2379 回例会報告

日 時：平成 30 年 9 月 19 日（水）

会 場：例会場

司 会：S A A

北島正典委員

開会点鐘

喜連元昭会長

斉 唱：ロータリーソング「日も風も星も」

お客様の紹介

喜連元昭会長

福島 清彦様 経済学者（卓話講師）

会長挨拶

喜連元昭会長

9 月に入り秋晴れとなりました、皆さん体調管理に十分お気を付けてください。地区より今年の多摩中グループテニス大会はロータリーデーにちなんでお願いしたいとの事です。テニスをおやりになる方は、10/8 にその趣旨の下で参加してください。

先月の西日本豪雨義捐金は地区で取りまとめて送金されました。最近は豪雨に加えて地震も増えており、地震が真冬におきると大変なことになります。備えをどうするか常に考えないといけないと思っております。

「情けは人の為ならず」を、最近若い方で、相手の為にならないからやめた方がいいと解釈する人が半分以上いたということもありましたが、我々ロータリアンにはないと思います。その気持ちでこれからもやっていきたいと思ひます。

また、50 周年の方は各委員会では色々詰めていなくてはなりませんので、よろしくお願いします。

幹事報告

小澤崇文幹事

●第 15 回 RYLA セミナーへの、

ロータリアンの参加のお願い。

日時 開会式 10/6 13 時

修了式典・授与式 10/8 13 時 30 分

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加申込は事務局へお願いします。

委員長報告

●鈴木親睦活動委員長 10/10 のスポーツ家族例会でのタクシー移動は、ボウリング場から例会を行う五十番までです。訂正いたします。

●関重寿 50 周年企画総務財務委員長 本日の例会後に委員会を行いますので、委員の方はお残りいただきますよう、よろしくお願いします。

ニコニコBOX

本多親睦活動委員

●喜連元昭会長 社会奉仕委員会におかれては、市民祭での新しい企画を詰めていただいている様で期待しております。皆で参加したいと思います。本日の卓話講師でお越し頂いた福島清彦先生のお話を楽しみにしております。

●小澤崇文幹事 暑さからは解放されましたが、気温の変化は身体にこたえます。福島清彦様の卓話拝聴いたします。

●喜連紘子会員 福島さん、ようこそお越し下さいました。初めてお会いした時から 50 年以上経ったと思いますが、アルコール抜きの席でお話を伺うのは初めてですネ。しっかり拝聴させて頂きます。

●ゴルフ同好会（北島正典会員・遠藤常臣会員・村上会員）9 月 7 日（金）に武蔵カントリー豊岡コースにおいて、東京国立ロータリークラブゴルフ同好会の今年度第 1 回コンペ、同好会会長杯が行われました。曇り空の絶好のゴルフ日和の下、優勝は圧倒的なハンデに守られた北島正典会員、準優勝 遠藤常臣会員、第 3 位村上会員

Rotary



RI 第 2750 地区 多摩中グループ

東京国立ロータリークラブ

会長 喜連 元昭

幹事 小澤 崇文

例 会 日：毎週水曜日

例 会 場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事 務 所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL：kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB：http://kunitachi-rc.com/

会報委員：岡本 貞雄・平川 貴浩・遠藤 直孝・千葉 伸也

となりました。準優勝と3位は同スコアでしたが年長者の遠藤常臣会員が準優勝となりました。会員の皆様に報告するとともにニコニコさせていただきます。福島清彦先生の御来訪心より歓迎いたします。

●プログラム委員会(遠藤直孝会員・村上会員) 本日は福島清彦先生の卓話「難民問題に揺れるヨーロッパ」

心して拝聴させていただきます。

*ニコニコBOX 合計 25,000 円 累計 546,000 円

出席報告

三田出席奨励委員長

9月12日 在籍48名中 出席35名

前々回(8月29日) 出席率 100%

閉会点鐘

喜連元昭会長

卓話

「難民問題に揺れるヨーロッパ」

経済学者 福島清彦氏



■講師の紹介

喜連紘子会員

本日の卓話講師にお越しいただきました経済学者の福島清彦さんをご紹介します。私からご紹介するのは、福島さんは喜連会長と学友ではありますが、同じ学友でもレベルが違いすぎるのでお顔を存じ上げている私ということなので代わりにご紹介をさせていただきます。

福島清彦先生は昭和19年生まれ、現在73歳です。

大学院卒業後20歳代は毎日新聞で経済記者をされました。その後アメリカのプリンストン大学に留学、34歳の時、野村総合研究所に入社され、野村総研のニューヨーク事務所に勤務後、首都のワシントンDCに野村総研の事務所を設立、初代の所長に就任。

いったん日本に戻られましたが、研究者としての実力が認められ50歳になられた時、米国でも超一流のジョンス・ホプキンス大学の大学院教授として招聘されました。55歳の時には、ロンドンにある「野村総合研究所ヨーロッパ」の社長に就任され、その後中国で天津日中大学院という大学で客員教授もされました。

帰国後は2005年4月から立教大学の教授に就任。70歳で立教大学を定年退職され、現在はもっぱら執筆活動に専念されておられます。著書も多数で、これまで17冊を発刊されています。

最近では「日本経済の『質』はなぜ世界最高なのか」という本をPHP新書で出されて、経済論文では経済企画庁長官賞などの賞を3つもらっておられるとのこと。今も次の本を執筆中で、内容は「中国から麻薬密輸でアメリカが攻撃されていることと、その背景についての本です。年内には出版予定とのこと。です。

海外生活12年を通じて訪れた国は102か国に上ること。そこでの色々面白い体験談もありとのことですが、それは又別の機会にということにさせて頂き、本日はご専門の分野からヨーロッパの難民問題について

普段私たちになじみの無いテーマですが、解り易くお話いただければ幸いです。

■卓話の論旨

1. アフリカからヨーロッパを目指す難民希望者が毎年数十万人現れ、うち数千人がボロ船の沈没により毎年地中海で溺死している。EU諸国民はこれに大きな衝撃を受け、各国で深刻な政策対立が生まれている。

2. EUは年20万人までは難民を受け入れる方針を決めているが、難民受け入れに反対する右派勢力がEU加盟各国で議席を増やし、5月に右派が政権を握ったイタリアは、イタリアの全港湾を難民船に対して事実上閉鎖した。イタリアのような大国が公然とEU本部の決定に反旗を翻したのである。「イスラムに甘い」と見られたドイツのメルケル首相が議席を大きく失い、指導力を弱めた。

3. アフリカでは南ア連邦を除き、工業化に成功した国はほとんどなく、アフリカ大陸内には就労の機会が少ない。2100年にはアフリカ人口が人類の半分近い46億人に達するという予測もある。このため人口が急増するアフリカからEU各国に向かう移民圧力はきわめて大きく、長期的で数億人に上る。この人数はEU各国の受け入れ能力から見て無限大に近い。一時収容所の受け入れ能力からしても、国民感情からしても、こんな大量の移民は受け入れられない。

4. 移民への対処方法をめぐって、EU本部と各国政府間、及び各国政府内での対立が強まっており、移民排撃の右派勢力が台頭している。2016年、英国のEU脱退も、EUの政策が移民に甘いと多くの英国人に見られたことが大きな原因であった。イタリアでもフランスでも、移民排撃派が力を強めている。2019年以降も長期にわたって、ヨーロッパの政治は難民問題への対処方法で揺さぶられ続けるであろう。2019年5月のEU議会選挙でも、難民問題が争点の一つになりそうである。